

みなさんはどこかにおでかけするときはどうやっていくでしょうね？くるまにのる人もいるでしょうし、じてんしゃにのって出かける人もいるでしょうね。むかしの人はじぶんのあしであるきました。じどうしゃがなかったころは、どこまでもみちをあるきました。

まずはならかいどう。ならに都<sup>みやこ</sup>があつたころ、ということではいまだ千三百年もまえですが、ならからにほんかにぬけるみちは山しなをとればべんりでした。いまでも、山しなの追分<sup>おいはわけ</sup>のあたりで東海道とわかれて南<sup>みなみ</sup>にいくみちはむかしつぼくてタイムスリップしたような気分<sup>きぶん</sup>にさせてくれます。

つぎは東海道<sup>とうかいどう</sup>。江戸時代<sup>えどじだい</sup>に京と江戸をむすぶ五十三次<sup>つぎ</sup>がつくられました。旧三条通<sup>きゅうさんじょうどおり</sup>が江戸時代にたび人<sup>びと</sup>があらういていた東海道です。山しなじぞうのあたりには今でもそのころのふんいきがのこっています。

東海道と渋谷<sup>しやぶ</sup>かいどうがわかるばしよには、「五条別<sup>ごじょうわか</sup>れ」のみちしるべがあります。一七〇七ねんに沢村<sup>さわむら</sup>さんという人がたてたものです。ここにかかれた名所<sup>めいしょ</sup>の中に「大沸<sup>おおい</sup>」とあるのは、ならの大仏ではなく、方広寺<sup>ほうこうじ</sup>の木でできた大仏のことです。

だいごかいどうはだいごから山科をぬけてしがけんにいたるみちです。このみちぞいにはたくさんのお寺もあり、江戸時代には「茶壺道中<sup>ちやうつぼどうちゆう</sup>」が宇治<sup>うじ</sup>から江戸にむかうときにとおるみちとしてつかわれていました。

茶壺道中<sup>ちやうつぼどうちゆう</sup>についてはつぎでくわしくせつめいしましょう。むかしはお茶にも「どげぎ」しなければいけなかったんですよ。🐞↓こんなおじぎです。さあ、なぜでしょうね？おんどくサイン↓

① なんのはなしでしょう？

( ) 山しなのむし ( ) 山しなのでんしゃ  
( ) 山しなのふしぎ ( ) 山しなのみち

② 上でとり上げられたうちで一番古いかいどうはなんといいますか？

③ 東海道は今のなんという通りですか？

④ 山しなじぞうのあるとおりのむかしのなまえはなんですか？

⑤ 五条わかれのみちしるべをたてた人は？

⑥ 五条わかれのみちしるべは今から何年前にできたのですか？

⑦ そのころ京都にあった大仏はなにできていましたか？

⑧ だいごかいどうをとって江戸にはこぼれたつぼの中には何がいっていましたか？

⑨ あっているものに○をつけましょう。

( ) とうかいどうにはふるいいえしかない。

( ) 江戸時代の家はなくなりつつある。

( ) 今でもお茶には「どげぎ」がひつようだ。

⑩ おもったことを五行でまとめましょう。

できればは？



今日から何回か山科の交通のれきしについてくわしくなってもらいましょう。じつはここ、山科は交通の要所<sup>ようしよ</sup>、むかしから多くの人や荷物<sup>にもつ</sup>が行きかった大切な道がたくさんあるのです。

まずは奈良街道<sup>ならかいどう</sup>。奈良に都<sup>みやこ</sup>があつたころ、ということとは千三百年も前ですが、奈良から北陸<sup>ほくりく</sup>にぬける道は山科を通れば便利でした。いまでも、山科の追分<sup>おいはけ</sup>のあたりで東海道と別れて南下する道は風情<sup>ふぜい</sup>がのこつていてタイムスリップしたような気分<sup>きぶん</sup>にさせてくれます。

次は東海道<sup>とうかいどう</sup>。江戸時代に京と江戸を結ぶ五十三次<sup>ごじじ</sup>が制定されたのです。車がたくさん通る今の三条通ではなく、旧三条通<sup>きゅうさんじょう</sup>が江戸時代に旅人が行きかつていた東海道です。山科地蔵<sup>じざう</sup>、徳林庵<sup>とくりんあん</sup>のあたりには今でもそのころのふんい気が残っています。

東海道から渋谷街道<sup>しぶたにかいどう</sup>に分かれる分岐点<sup>ぶんきてん</sup>には、「五条別れ<sup>みちろくれ</sup>」の道標<sup>みちしるべ</sup>があります。宝永四年（一七〇七）に沢村道範<sup>みちのり</sup>という人がたてたものです。ここに書かれた左に行けば見られるという名所の中に「大沸<sup>おほいづ</sup>」とあるのは、奈良の大仏ではなく、方広寺<sup>ほうこうじ</sup>の木像大仏のことです。

醍醐街道<sup>だいご</sup>は外環状線<sup>そとかんじょうせん</sup>とも一部重なる道ですが、醍醐から山科<sup>やまなか</sup>をぬけて滋賀県大津市<sup>しがけんおおつし</sup>にいたる道です。この道ぞいには随心院<sup>ずいしんいん</sup>や醍醐寺<sup>だいごじ</sup>や勧修寺<sup>かじゅうじ</sup>などのお寺もあり、江戸時代には「茶壺道中<sup>ちやつぽうちゅう</sup>」が宇治から江戸に向かう時に通る道として使われていました。

茶壺道中<sup>ちやつぽうちゅう</sup>については次号でくわしく説明しましょう。昔はお茶にも土下座<sup>どげざ</sup>しなければいけなかったんですよ。さあ、なぜでしょうね？

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

② 上で取り上げられたうちで一番古い街道は何ですか？

③ 東海道は今のなんという通りですか？

④ 山科地蔵のあるお寺の名前は？

⑤ 奈良街道と東海道の分岐点の地名は？

⑥ 五条別れの道標は今から何年前にできたのですか？

⑦ そのころ京都にあつた大仏の素材は何でできていましたか？

⑧ 醍醐街道を通して江戸に運ばれた壺の中には何がっていましたか？

⑨ あつているものに○をつけましょう。

( ) 東海道は昔の家ばかりが立ち並んでいる。

( ) 江戸時代の家は姿を消しつつある。

( ) 今でもお茶には土下座が必要だ。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

---

---

---

---

---

できばえは？



今日から何回か山科の交通の歴史についてくわしくな  
ってもらいましょう。じつはここ、山科は交通の要所、  
昔から多くの人や荷物が行きかった大切な道がたくさん  
あるのです。

まずは奈良街道。昔、奈良に都があったころ、という  
ことは千三百年も前ですが、奈良から北陸に抜ける道は  
山科を通れば便利でした。いまでも、山科の追分のあた  
りで東海道と別れて南下する道は昔の風情がのこってい  
てタイムスリップしたような気分にさせてくれます。

次は東海道。江戸時代に京と江戸を結ぶ五十三次が制  
定されたのです。車がたくさん通る今の三条通ではなく、  
旧三条通が江戸時代に旅人が行きかっていた東海道で  
す。山科地蔵、徳林庵のあたりには今でもそのころのふ  
んい気が残っています。

東海道から渋谷街道に分かれる分岐点には、「五条別  
れ」の道標があります。宝永四年（一七〇七）に沢村道  
範<sup>はん</sup>という人がたてたものです。ここに書かれた左に行け  
ば見られるという名所の中に「大沸」とあるのは、奈良  
の大仏ではなく、方広寺の木像大仏のことです。

醍醐街道は外環状線とも一部重なる道ですが、醍醐<sup>だいご</sup>  
から山科を抜けて滋賀県大津市にいたる道です。この道ぞ  
いには随心院や醍醐寺や勧修寺などのお寺もあり、江戸  
時代には「茶壺道中」が宇治から江戸に向かう時に通る  
道として使われていました。

茶壺道中については次号でくわしく説明しましょう。  
昔はお茶にも土下座しなければいけなかったんですよ。  
さあ、なぜでしょうね？

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

② 上で取り上げられたうちで一番古い街道は何  
ですか？

③ 東海道は今のなんという通りですか？

④ 山科地蔵のあるお寺の名前は？

⑤ 奈良街道と東海道の分岐点の地名は？

⑥ 五条別れの道標は今から何年前にできたので  
すか？

⑦ そのころ京都にあった大仏の素材は何ででき  
ていましたか？

⑧ 醍醐街道を通して江戸に運ばれた壺の中には  
何がっていましたか？

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ）東海道は昔の家ばかりが立ち並んでいる。

（ ）江戸時代の家は姿を消しつつある。

（ ）今でもお茶には土下座が必要だ。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

---



---



---



---



---

できばえは？

